

木材ニューズレター

(財)日本木材総合情報センター
TEL03-3816-5595 FAX03-3816-5062

木材製品の荷動き・価格先行き動向調査(20年2月分)

1. 調査実施期間 平成20年 1月20日 ～2月10日

2. 調査実施方法

東京、大阪、名古屋の流通企業(問屋、仲買・小売商)に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。

2月分の回答企業数は37社、回収率は80.4%である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight. D. I. (ウェイト・ディフュージョン・インデックス) = { (「増加」の評価を行った回答の割合) × 2 + (「やや増加」の評価を行った回答の割合) - (「減少」の評価を行った回答の割合) × 2 - (「やや減少」の評価を行った回答の割合) } ÷ 2

したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) 荷動き動向

表-1 荷動き Weight. D. I.

		20/2月	3月	4月
仕入動向	国産材	△ 25.0	△ 19.6	△ 13.5
	外材	△ 22.7	△ 16.7	△ 6.3
販売動向	国産材	△ 37.5	△ 14.3	△ 3.7
	外材	△ 27.3	△ 6.1	7.8
在庫動向	国産材	△ 13.8	△ 13.8	△ 12.5
	外材	△ 9.7	△ 12.9	△ 10.0

仕入は、国産材、外材とも大きなマイナスを着実に小さくしたが、依然マイナス基調のままで弱含み。プラスへの足踏み続く。

販売は、国産材、外材とも3～4月春需に向けて一気の回復気配で明るさ出ている。とりわけ外材はやや強含み。

在庫は、国産材、外材ともマイナスの増減あるが、ほぼ横ばい。

(2) 価格動向

表-2 価格 Weight. D. I.

品目	20/2月	3月	4月
スギ正角(グリーン)	△ 7.1	△ 7.1	△ 2.5
スギ正角(KD)	△ 4.5	2.3	2.4
ヒノキ正角	△ 4.3	△ 2.2	0.0
ヒノキ土台角	△ 6.8	△ 2.3	0.0
米ツガ正角(現地挽)	7.9	7.9	2.6
米ツガ防腐土台角	11.9	7.1	2.5
米ツガ割物(現地挽)	10.0	10.0	2.5
米マツ平角	0.0	2.4	0.0
北洋アカマツタルキ(現地挽)	△ 5.0	10.0	7.9
ホワイトウッド集成管柱	26.2	16.7	10.0
レッドウッド集成平角	0.0	11.1	8.3
型枠合板(国産)	8.8	17.6	20.6
型枠合板(輸入)	8.3	11.1	20.6
針葉樹合板	8.3	22.2	11.8

スギ正角(グリーン、KD)マイナスを減らし着実な回復模様。特にKD材はプラスとなり期待大。ヒノキ正角、土台もマイナス縮めゼロへと堅調気配。米ツガ正角、防腐土台角、割物、米マツ平角はいずれもプラスからゼロと、産地での品不足もあって好調持続。北洋アカマツタルキはマイナスから一気のプラスと好調基調、先行きやや強含み。WW集成管柱、RW集成平角ともプラス基調で、完全回復し、やや強さある。合板大きなプラスへ推移し、本格的な勢い回復した。なお、針葉樹合板は若干歩み遅い。4月にマイナスはスギ正角グリーンのみとなり、ようやく良い風向き。

1. 荷動き	コメント
仕入動向	<p>米マツ一般材丸太では、下げ続けた米材輸出価格が据え置きとなり、現地の港頭在庫も大幅減少。米材コースト、カナダ材カスケード、セカンドグロス、全アイテムが強含みとなった。(東京:問屋)</p> <p>為替が円高傾向だが船賃の上昇で製品コストは変わらず。中国は春節(旧正月)で休み、南洋材産地は天候不順。(東京:問屋)</p> <p>円高で仕入れコストは上がり、但しフレートの影響がこれからどのようになるか注目している。(東京:問屋)</p> <p>産地高は変わらず、仕入れ難は続いている。(東京:問屋)</p> <p>産地は買ってくれという姿勢。(東京:問屋)</p> <p>アカマツ内地挽き製品は下旬頃から値下げの模様。(東京:問屋)</p> <p>ポチポチ底値感あり。仕入れ時か?(東京:問屋)</p> <p>まだまだ仕入れ意欲ない。荷動き悪く細かくなっている。旧盆明け(9月)に期待。(東京:問屋)</p> <p>2月に入っても未だ大きな動きがない。数年前から非常に厳しい時を過ごしてきたが、今年は最悪の年になるのではないか。何とか景気立直りのキッカケを掴みたい。(東京:仲買小売)</p> <p>まったく動き悪く上向く様子が感じられない。売り上げも最低を記録。このままでは廃業。(東海:問屋)</p> <p>九州関係の小径木を中心にやや増加が見込まれる。各社原木在庫が多く、売りに転じるものと思われる。(東海:問屋)</p>
販売動向	<p>米マツ丸太は京浜への本船入荷が3ヶ月ゼロのため、問屋の手持ち在庫も減少。動きの鈍かったコースト系も不足感が強い。(東京:問屋)</p> <p>見積りは増えているが肝心の製品が在庫欠品している事がある。急ぎの仕事が多く加工が間に合わない。(東京:問屋)</p> <p>ツガ、グリーン・KDともに中国材に変わった。プレカットもあり、数量の増大は期待できない。(東京:問屋)</p> <p>造作材が若干動く程度。構造材役物は皆目売れず。(東京:問屋)</p> <p>ここまで下がれば少し仕入れておくか…といったところ。(東京:問屋)</p> <p>バンドルの荷動きは低調。バラ出し、注文材は好調。(東京:問屋)</p> <p>入荷順調だが、販売は低調。円高の分だけ原価下がり、販売価格は多少の下がり。(東京:問屋)</p> <p>そろそろ底値感台頭か。(東京:問屋)</p> <p>この20年間で一番に動きが悪い。(東京:問屋)</p> <p>サブプライム問題が尾を引いて、景気が心理的に委縮している傾向。(東京:仲買小売)</p> <p>1~2ヶ月先の仕事の話は始まったが、逆に年明け以降足元は最悪。年始早々・確認申請問題・先行き経済見通しの不透明さ、諸々の要因が絡み、仕事量は極端に少ない。(東京:仲買小売)</p> <p>3月の声を聞かないと仕事は動き出しそうに無い。(東京:仲買小売)</p> <p>土台を中心に全体に停滞気味。市場では並材の相場が立たない。相変わらず役物は売れない。(東海:問屋)</p>
在庫動向	<p>米マツ丸太の問屋手持ち在庫は大幅に減少。(東京:問屋)</p> <p>在庫量は減少傾向、産地も出材量少なく、まとまった入荷は4月まで見込めず。(東京:問屋)</p> <p>急激に減少してきた。(東京:問屋)</p> <p>全体的に少なくなっている。バランスは取れている。(東京:問屋)</p> <p>アカマツ現地挽きタルキのグリーン材が少ない。(東京:問屋)</p> <p>相変わらず負担を軽くするため、在庫を圧縮せざるを得ない。しかし随分減ったので寂しい。店の存在感が小さくなった。(東京:仲買小売)</p> <p>これでは思い切って仕入れが出来る様子は無い。(東海:問屋)</p>

2. 価格動向	
スギ正角	
ヒノキ正角	KD材の指定が増えてきた。(東京:問屋)
ヒノキ土台角	土台角の動き悪く、1月末には原木も2,000円/m3あたりの下げ相場。(東海:問屋)
米ツガ	
米マツ平角	今後も無風と思われます。(東京:問屋)
北洋アカマツタルキ	3月頃アカマツグリーンタルキは減る(現地挽き)。(東京:問屋)
WW・RW集成材	<p>WWは在庫調整が進んでこれから価格上昇になると思う。(東京:問屋)</p> <p>管柱が値上げになり、それに反応して強含み。(東京:問屋)</p> <p>メーカー値上げを唱え、管柱は上がった。RWも3月頃値上がり予定。(東京:問屋)</p> <p>商社は品不足を理由に値上げを主張していますが、需要が無く、先は分からない。だが在庫補充のための当用買いはしている。(東京:仲買小売)</p>
合板	<p>荷は動かないけれど、値は堅い。(東京:仲買小売)</p> <p>コストを考えると底値に近い相場と思うが、荷動きの悪さを考えると底値と言い切れるか若干疑問も。(東京:仲買小売)</p> <p>針葉樹合板、底入れしたと思われる。関西は高いので徐々に上昇か。(東京:仲買小売)</p>